

## 北海道特別支援学級設置学校長の活動や要望について

……………三戸 奉幸 指名理事

少子化による道内の小中学校の統廃合が進んでいる中、特別支援学級設置校は増加を続けており、今年度は1,413校でスタートした。これは道内の小中学校の8割を超える数字であり、今後も増え続けていくことが予想される。

5月の定期総会での研修で、道立特別支援教育センターの小原所長より、ここ15年間の特別な支援を必要とする児童数について詳しいご説明をいただいた。弱視・肢体不自由・難聴・病弱虚弱・言語には大きな変化が見られないが、知的障がいはこの15年間で2倍、自閉症情緒障害は4.3倍に増加している。さらに通級指導教室の児童数は、2.4倍になっており、伸び率は年々高くなっている。このままだと、いずれ知的障がい学級の児童数を超える心配もあるとのことであった。通級に通う児童は、原則、通常の学級に在籍しており、通常の学級に特別な支援を必要とする児童がますます増えていく可能性があることになる。

8月30日には札特協との合同研修会を道立特別支援教育センターで開催した。校長だけでなく、教頭やリーダー的な立場の先生も対象にしており、今後ますます重要となる特別支援教育の理解を深めることを目的にしている。来年度も同じ時期に計画している。是非、校長先生はもとより、教頭先生等へもお声がけ願いたい。

10月31日、11月1日の二日間にわたり、第44回道特協経営研究会オホーツク北見大会を北見市において開催した。オホーツク地区での開催は初めてであったが、大会実行委員の校長先生を中心としたオホーツク地区の強い結束のもと、200名を超える参加があり、実り多い大会になった。大会の全体研修会では、教育指導監の上林様より、「自立活動」について実例を交えてご講演いただいた。共生社会の実現を視野に入れた学校経営について多くの

ご示唆をいただいた。小樽地区、上川地区、苫小牧地区、日高地区の校長先生からご提言をいただき、特別支援学級の教育課程編成、個別の教育支援計画の活用、教師の専門性向上、関係機関との連携について研修を深めることができた。

来年は、11月5日、6日に第45回道特協経営研究会 函館大会・全特協第57回 全国研究協議会 北海道大会を開催する。全国からの参加を含め、500名程度の規模になると予想している。全道の校長先生の協力をお願いしたい。